

物価高 入院食を直撃

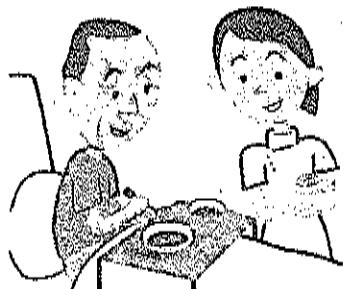
止まらない物価高騰が入院食も直撃しています。病院経営の赤字が膨らみ、治療の一環である入院食の提供が困難な状況だと悲鳴が上がっています。

患者が入院時に提供される食事の費用は、公的医療保険から支払われる「入院時食事療養費」と患者負担で賄われます。

国は食費の総額を「1食640円（一般病床など）」と設定しており、そのうち患者負担は「一般所得」の場合460円（難病患者などを除く）です。残り180円が療養費となっています。

问题是、食費総額の設定金額が実質的に約30年間も据え置かれていることです。1994年の制度創設以降、97年度からの5%への消費税増税に伴う対応で、翌98年度に一日分を20円増の1,092

国の設定額 約30年間据え置き



0円でしただけです。

いずれも赤字に

厚生労働省の2001-7年時点の調査では、光熱水費や人件費の上昇が影響し、病院の給食部門は運営形態が全面委託・一部委託・完全直営のいずれでも赤字でした。さうに昨今の食材費・光熱水費などの高騰が追い打ち。運営業者らがつくる日本メディカル給食協会の試算では、病院側の必

要経費は一日一人あたり平均2,280円（22年10月時点）に増えています。国の設定金額1,092円を超えた分の360円が赤字です。50床未満の小規模病院の場合、病院側の必要経費は同の305円とのことです。

日本医師会など関係10団体は「もはや経営努力のみでは食事療養の提供が極めて困難な状況」だとして、補助金での財政支援などを武見敬三厚労相に要望（5日）。曰病院団体協議会は「もはや小手先の食事療養費の見直しひみでは解決できない」と強調し、患者の治療が必要な栄養管理を含む病院給食制度の「抜本的改革」（7月）を求めています。

一方、食費の設定金額は据え置かれたもの、「一般所得」の患者負担は16、18年度に連続値0円でしただけです。いずれも赤字に相に要望（5日）。曰病院団体協議会は「もはや小手先の食事療養費の見直しひみでは解決できない」と強調し、患者の治療が必要な栄養管理を含む病院給食制度の「抜本的改革」（7月）を求めています。

上げられてきました。療養費を引き上げる場合、患者負担を増やすかない対策も求められています。

放置された課題

これを受け、武見厚労相は記者会見で「食事費の問題については長年据え置かれており、事实上放置されたような課題」として、補助金での財政支援なども武見敬三厚労相に要望（5日）。曰病院団体協議会は「もはや小手先の食事療養費の見直しひみでは解決できない」と強調し、患者の治療が必要な栄養管理を含む病院給食制度の「抜本的改革」（7月）を求めています。

一方、食費の設定金額は据え置かれたもの、「一般所得」の患者負担は16、18年度に連続値0円でしただけです。いずれも赤字に相に要望（5日）。曰病院団体協議会は「もはや小手先の食事療養費の見直しひみでは解決できない」と強調し、患者の治療が必要な栄養管理を含む病院給食制度の「抜本的改革」（7月）を求めています。

「維持困難」財政支援が急務

1日分を20円増の1,092

（松田大地）